

2009年4月20日

📧 大切な人に送る 手紙の楽しみとは

先日、私宛に手紙が1通届きました。メールが伝達手段の主流となった今でも、私は小学生時代からの友達と文通を続けています。



転勤族の家庭で育った私は、父の仕事の関係で3度の引越しを経験しました。それぞれの場所で多くの友達ができ、仲良くなった友達と別れるのはつらく悲しいことでしたが、引っ越した後に交わす手紙が大好きで、転校を楽しんでいました。

また私の小学生時代は、携帯電話やメールなどはほとんど使用されていなかったもので、転校して会えなくなった友達との伝達手段は手紙でした。当時は毎日、学校から帰って家の郵便受けを見るのが楽しみ。遠く離れた友達からの、手紙や写真がたくさん詰まった封筒を見つけると、とても温かい気持ちになったものです。

年を重ねるにつれ、パソコンのメールや携帯電話も発達し、時代と共に私自身も手紙を書く回数がだんだん減ってきました。それでも私は、今も手紙が好きです。現在、手紙のやり取りをする人が少なくなり、残念に思っています。書く手間も時間もかかって面倒かもしれませんが、手紙は素晴らしい伝達手段です。読み手を思いながら、心を込めて書いた手紙には思いが詰まっていると思います。

大学生活の忙しさで、手紙を書く時間の確保は難しくなっていますが、たまにはゆっくりと書く時間を作ろうと思っています。皆さんも相手のことを考えながら、時間をかけて大切な人に手紙を書いてみてはどうでしょうか。（名古屋学芸大3年 野田梓織）

（写真）小学生時代から続けている友達との手紙